杉並の風日記 R06.03.31

天文物理学者“BossB”こと_藤田あき美さん　小林製薬_紅麹サプリ

今年は暖冬でしたが、ここにきて冷たい雨の日が続いたせいなのか、桜の開花が数日遅れて、ようやく高円寺にもつぼみが開き始めました。明日から 4 月、最近すっかり“エイプリルフール”なる言葉を耳にすることがなくなりましたが、どこかでちょっとした嘘で皆を楽しませている人がいてほしいものです。

小林製薬が扱っていた“紅麹”のサプリメントで、腎疾患患者が発生し、すでに 5 人が死亡し、100 人を超す人たちが入院治療しているとのことです。原料として、52 社の取引先へも供給していたことにより被害がさらに拡大しそうな様相です。最悪なのは、1 月に発症事例を把握していたにも関わらず、3 月下旬まで公表・回収を放置し、対応が後手後手に回ってしまった企業のコンプライアンスが問われています。過去にもカネミ油症や薬害エイズなどの事例がありましたが、その教訓が生かされていなかったということになります。今回のサプリは“機能性表示食品”という、トクホと呼ばれている“特定保健用食品”とは異なり、規制緩和により有効性や安全性の根拠に関する情報等を消費者庁へ届け出するだけで、事業者の責任で機能性表示する食品です。この規制緩和も実は故安倍さんがやったもので、彼は“モリ・カケ・サクラ”、“アベノマスク”、“旧統一教会とのズブズブの癒着”etc.…特権濫用の総合デパートのような人です。でももう“死人に口なし”、来週にも派閥解散の憂き目に遭った安倍派 5 人衆への処分が決まるようです。まあ、岸田さんが個別にホテルでの密室面談されたようですが、フタを開けたら甘々の裁定か？はなから期待などしてはいません。

最近小池都知事がエラく目立ち始めています。国会議員の補欠選挙では、逆風でボロボロの自民立候補者たちが、選挙戦最終間近に小池さんの応援を受けて、なぜ

か当選―野党も選挙民もだらしない―、なんかご本人も再び国政へ転じ、首相ポストを狙うなんてことも書かれています。人気、知名度でも岸田さんよりははるかに上、でもなんかウサン臭さがプンプンしています。都議会では今こんなことが話題になっています。東京新聞“本音のコラム”前川喜平さんの論評です。

都議会のファシズム　3月31日付

前川　喜平　― 現代教育行政研究会代表 ―

ファシズムという言葉は「束」を意味するイタリア語ファッショに由来する。多数が束になって少数を弾圧するファシズムが東京都議会で起きている。立憲民主党と共産党の議員の発言取り消しを求めた26日の決議だ。

13日の予算特別委員会。立憲民主党の関口健太郎議員は、小池知事が本会議で質問者28人中21人には前問自分で答えたのに、7人には74問中18問しか答えなかったのは「答弁巨費」「答弁差別」だとし、「耳障りの悪いことをいう議員の質問は排除するのか」とただした。知事はこれにも答えず役人に答弁させた。決議はこの質問を不穏当と決めつけた。

同じ委員会で共産党の福手ゆう子議員は、朝鮮学校への補助金停止は都こども基本条例8条に照らし許されないと指摘。人権部長が人権尊重条例には子どもも含まれ国籍は問わない旨を答弁していた事実に言及したが、決議はその言葉尻をとらえて虚偽だと難癖をつけた。多少不正確な言及だとしても、補足説明で済む程度の話だ。

都民ファーストの会、自民党、公明党の3会派が、小池翼賛体制ともいうべき多数の力で少数会派の言論を封殺しようとした。これは民主主義の破壊でありファシズムそのものだ。都議会は、1940年に反軍演説を行った斎藤孝雄を除名した帝国議会のようになりつつある。

“天文物理学者　BossB”…「地球外知的生命体はいるか、いないか？」。金色のロングヘアに輝くネイル。大きな手ぶりとともに、勢いよく言葉を繰り出し、宇宙の謎に迫る。宇宙物理学者で信州大学准教授の藤田あき美さん―52歳、BossBという愛称は、自立した女性の意。英語のスラング―が配信する短編動画が話題になっているとのこと。TikTokをはじめ、SNSの総フォロワー数は65万人超だとか、人の心をつかむ発信し続けています。藤田さんは米コロンビア大学大学院で博士号を取得後、独マックスプランク天文学研究所などで研究活動を続け、次男出産を機に7年間子育てに集中。2014年以降信州大学工学部で教鞭を取っているというキャリアの方です。彼女いわく、“科学技術分野に進む日本の女性の数が、大学生レベルで圧倒的に少ないんですよ。医学部含めて20%くらい、米マサチューセッツ工科大学で半々くらいなのにおかしな話だなと思って。大学院生になったらもっと減って、研究者レベルになるとさらに減る。それがいけないといっているわけじゃない。やりたくないならいいんだけど、この他国との差は一体何なのだろうと思って”とのこと。ネットで科学や技術の面白さを伝えたいと考え始めたそうです。“ジェンダーとかアイデンティティーとか関係なく、老若男女全ての人に、あるがまま生きて好きなことを追求

して、そんなあなたが輝いているんだよって。生きづらいとしたら社会が、あなたの輝きを見えてないから。生きづらいのはあなたの問題ではない”宇宙物理学を基本的な成分レベルで説明を試みる学問と感じ、自身が抱いた疑問への解を求めて、学位論文ではスーパーコンピュータで銀河をつくって銀河構造の数値を計算したそうです。で、解は出たのか？という問いに、“宇宙は知れば知るほど答えがなかった。意味というものは自分が与えるもので、自分の価値は自分で見出すものなんだってところに行きついた。そしてそこにピース―平和、平穏―を感じて落ち着いた”そうです。冒頭の地球外知的生命体の有無を問う動画の締めくくりは“人類は特別でなくていい、でも私とあなたはピッカピッカの特別だからね！ピース！”…最後の決まり文句は“ピース！”、なんかステキな人、会って話してみたいけど、レベル差があり過ぎかも？デンマーク人のダンナさんとの間に 20 歳、17 歳のイケメンハーフの息子さんがいるそうです。

通訳の水原一平氏の違法賭博疑惑で 26 日の朝、大谷選手が記者会見を行い、自らの潔白をしっかりと説明していました。水原氏がどのようにして、大谷の口座からあんな巨額のお金を引き出せたのかについては、まったく触れませんでしたが、それは今後詐欺か横領の事件として調べてゆくことになり、あの場での言明は避けたという印象でした。もし、大谷選手が相談を受けてカネを引き出したということになれば、その時点で偽証が判明するんだろうと思われますが、大谷のキャラを考えるとウソはついていないだろうことを僕は信じています。東京新聞“本音のコラム”斎藤美奈子さんの論評です。

翔平と一平　　3 月 27 日付

斎藤　美奈子　　― 文芸評論家 ―

スーパースターは一点の曇りもなく清廉潔白であってほしい。多くの人はそう願う。だが現実はそう単純ではない。

ドジャース・大谷翔平選手の通訳だった水原一平氏の違法賭博疑惑が発覚。26 日の特報面が伝えた通り、ショックを隠せない人が多かった。

それでも大谷は衆目を集めた会見をひとまず無難に乗り切った。自分は一切賭博に関与しておらず「彼が僕の口座からお金を盗んで、なおかつ皆に嘘をついていたというのが結論」だと。いくつかの疑問点は残るにせよ毅然とした答えにファンは安堵しただろう。

ただ、これは最初から予想できた結果だったように思える。MLB はビッグビジネスで、その至宝であるスター選手に一点でもキズがつくことは、ドジャースはもちろんスポンサーもファンも望まないからだ。である以上、事実はどうあれ大谷もまた自由な発言ができる立場にはない。

疑惑を払拭した大谷は（社会人としての管理責任の甘さは残るにしても）これでプレーに専念できるだろう。一方「嘘つき」のレッテルを貼られた水原氏に当面弁明の機会は与えられず、再起への道も険しいように思われる。

大谷にも賭博の胴元とされるボイヤー氏にも優秀な弁護士がついている。ひとりで放り出された水原氏にこそ弁護人が必要だと思うのは理不尽だろうか。

米大リーグも今日で 3 戦目、ドジャースは対カージナルス 4 連戦。2 試合連勝で迎えた今日は、延長 10 回 2 アウト満塁で大谷選手に回りましたが、内野フライで打ち取られ負けてしまいました。大谷選手もそれなりに打っていますが、少し調子を落とし気味―精神的な面もあるか？―の感もあります。山本由伸が初の先発のマウンドにあがり、5 回無失点素晴らしいピッチングでしたが、3 人目のピッチャーが逆転を許し、ザンネンながら勝ち投手の権利が消えてしまいました。2 人とも長丁場のシーズンなので、どんどん活躍してくれることを期待しています。

宇都宮大学の国際学部で学ぶ 4 年生の 22 歳のフィリピン人女性が、大学側から授業料の免除をし過ぎたとして、過去にさかのぼり合計 44.6 万円を 3 週間以内に一括で払わなければ除籍処分とすることを通告され、窮地に陥っていると東京新聞が記事にしたところ、多くの読者から救済の申し出があり、弁護士を通じて支払うことができたという朗報が載っていました。女性は 8 歳で家族と日本に移住、ご両親は都内に住んではいるものの年収が 300 万円前後とのことで、仕送りは受けておらず国の支援制度に基づき授業料の 3 分の 2 が免除され、奨学金を受けて払っていたとのこと。卒業目の前の 3 月になってから、そんなことをする大学側の無神経さに腹が立つとともに、多くの方たちが全額払ってあげると申し出た温かさに日本もまだ捨てたもんじゃないと感動しました。大学側はこの件に関して、“期限内に授業料を納付しない学生は除籍という学則に基づいており適正”と答弁したとのこと。まあ、その通りなんだけど、卒業まで 3 週間というこの時期に、生活が苦しい外国人大学生に対してやることでしょうか。国立大学がすべて同じような対応だとすれば、日本という国は教育立国にはなれない、こんなことを税金で救済できるようにすべきです。武器なんかで高額のローンを組んだりしないで、こっちに回してください、

先週は、来年度の環境計量士国家試験受験対策の講習会のビデオ撮影で 5 時間―編集して 3 時間くらい―カメラの前で話してきました。コロナ禍以降、対面ではなく WEB での開催となり、6 月から約 3 ヵ月間聴講できるようなシステムに変わりましたが、僕を含め 5 人の講師が 3 時間ずつ話すのをじっと聞きながら勉強する人たちも大変だよねと感じています。9 月からは後半戦の過去問の解説の WEB も同じボリュームなので、半年もこれに付き合うことになります。僕や周りの後輩たちは、こんな講習を受けずに自分で勉強して資格取得したケースがほとんどなので、講師をやってはいるものの、誰がこんな講習を受けているのかと思っています。それなりの受講料の金額なので、自腹を切るのも大変そうです。最近は受験者数もどんどん減って、業界もそろそろ資格者が飽和状態になっているのかもしれません。淋しくもあり、せつなくもあり…